

預金残高が過去最高

大垣西濃信金、745億4300万円

3月期決算

大垣市恵比寿町の大垣西濃信用金庫が21日発表した2019年3月期決算は、期末預金残高が普通預金など流動性預金の増加により前年同期比0・6%増の7459億4300万円と過去最高を更新した。マイナス金利政策による貸し出し利ざやの縮小が止まらず、本業のもつけを示す実質業務純益は1・9%減の8億6200万円だった。

事業主を中心に法人向け資金需要が伸びず0・6%減の3326億4900万円となった。

財務の健全性を示す自己資本比率は0・47%低下の13・36%。金融再生法ベースの不良債権比率は0・84%下げ4・26%となった。

20年3月期は金利の下げ止まりを見越し、減益幅が縮まるとみている。

(古家政徳)

純利益は、店舗統合による経費削減や手数料収入の増強に努め、1・8%減の6億5000万円にとどめた。減益は、16年の合併後で3期連続。期末貸出金残高は、小規模事業者や個人